

2018年度 大学自己点検・評価(人間福祉研究科)自己点検・評価総括用シート 1

＜人間福祉研究科の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)	評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1 「人間福祉」研究に関わる諸分野で修得した理論・思想・歴史等の知識や価値、並びに学問的手法及び実践的手法を用いて行った研究内容・成果を広く社会に発信し、その専門性を通じて社会に貢献し得る人材を育成する。	学会・研究会等での発表、もしくは学内外の研究雑誌等への論文等の投稿のいずれかを当該年度に1回または1回以上した学生の割合 それらを1回以上した者の人数／当該年度在籍者数×100%	A: 60% B: 50% C: 研究科として現状把握 D: 各教員が個々に把握している	2018年度目標値 B
			2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C
目標2 「人間福祉」という従来の学問区分を超えた新しい学問領域を深化させ、この領域で日本・世界を牽引する教育・研究者を輩出する。	人間福祉研究科博士課程前期課程に入学し、人間福祉研究科博士課程後期課程を修了または単位取得満期退学した者に対する博士学位授与数	A: 2008年度からの累積で6名 B: 2008年度からの累積で5名 C: 2008年度からの累積で4名 D:	2018年度目標値 D
			2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) D

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

今回の取組みによって、大学院における問題点(研究者育成・カリキュラム・入試等)の問題点を再認識する機会となり、本年度より大学院諸問題検討委員会にて①博士論文審査の在り方②学生への指導体制の整備について検討を行い、今後も検討していく予定である。

また、学部と同様にホームページをリニューアルすることにより、滞在時間を大いに増やすことができ、本研究科の理解浸透に寄与されている。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・ これからの取組みに期待します。(A)
- ・ 「3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと」については、やや説明不足である。(B)
- ・ 適切に自己点検できており、評価されます。(C)
- ・ 引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展につながることを期待します。(F)
- ・ 引き続き、大学院諸問題検討委員会を中心に自律的・積極的に改善活動に取り組まれることを期待しています。(G)
- ・ 大学院諸問題検討委員会での検討が進められ、今後、大学院の活性化を図る施策が進むことを期待しています。(H)